

野田市立福田第一小学校

1 学校紹介

本校は、野田市南部の自然豊かな農村地区に位置し、創立115年を迎えた伝統校である。全学年単学級、全校児童95人の小規模校で、児童は、素直で明るく、様々な活動に進んで取り組んでいる。また、異学年交流（シスター活動）が盛んに行われ、全校児童の仲が大変良い学校である。周辺には、三ツ堀里山自然園、利根川河川敷にスポーツ公園、野田市三ツ堀「コウノトリの里」などがあり、地域の環境を生かした農業体験活動、里山自然観察会、コウノトリの観察会など特色ある教育活動を行っている。保護者、地域の方々とは、学校教育活動に協力的であり、学校行事等を通して連携を深めている。

2 学校教育目標

目標を持ち進んで工夫・努力をし続ける児童の育成

重点1 工夫しながら、進んで学習を継続する知恵のある子

(5) 「図書室に行きましょう」「本を読みましょう」「読書定期便の活用を」

重点2 けじめをつけ、友だちと協力して、進んで行動する子

重点3 進んで体力・運動能力を伸ばす子

重点5 思いやりをもち、福田と人と自然を大切にする子

3 読書に関する目標等

(1) 学校図書館教育目標より

・読書の楽しさを体験させ、進んで読書する子を育てる。

(2) 校内研究主題

自ら読みを深める国語科指導のあり方

—単元を貫く言語活動の充実をめざして—

4 自校の図書館の現状

(1) 蔵書数 5285冊 (H27.12現在)

・学校図書館図書標準の達成状況は、平成26年度末99%である。かなり古い図書があり、昨年度廃棄した。今後も入れ替えていく必要がある。

(2) 利用状況 (H24～H26)

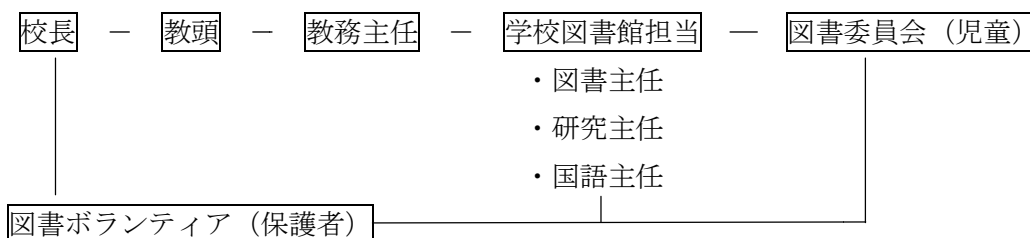
一人当たりの年間貸し出し冊数

(冊)

	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年
H24	24.7	31.1	65.2	16.6	20.6	15.4	5.5
H25	37.7	101.6	39.5	33.2	17.1	19.6	14.4
H26	37.9	106	40.8	38	22.4	21.9	12.1

5 学校図書館担当教諭（図書主任）の取り組み

(1) 校内組織と主な役割



- ・小規模校のため、国語主任が図書主任を兼任してきた。平成26年度は、市の学校図書館司書が配置され、新システム導入とともに迅速に対応したため、7月からバーコードによる図書管理や貸し出し活動を開始することができた。また、図書の整備、学習活動への援助等もスムーズに行う事ができた。本年度、学校図書館司書の配置は、ない。図書ボランティアは、平成24年度末に、一度不在になったが、平成25年度より新たに募集を行い、活動を再開している。手厚く進めるには、厳しい現状であるが、学校長を中心として、学校全体で読書活動の推進を行っている。

(2) 子どもや教員に対する支援

① 図書館の運営に関すること

- ・「本の借り方返し方」の配布
- ・新着図書コーナー、おすすめ本コーナー（校長先生、図書ボランティアさん、図書委員）の設置
- ・図書委員会の指導（当番活動、読書月間の活動、委員会発表、読書定期便等）
- ・新着本の受け入れ、個人カード（バーコード付き）の作成

② 読書推進活動に関すること

朝の読書タイム（朝読）と週末に「本を読みましよう」

- ・毎週月曜日の朝8：05～8：20を読書タイムとして日課表に位置づけている。また、週末に本を読むように、金曜日に図書館へ行くことを進めている。

（担任、図書委員）朝読の時間は、全学年読書に集中し、静まりかえった時間となっている。児童は、本を読むことに抵抗感がなく、少しの時間でも本を読むことを楽しんでいる様子が見られる。



読み聞かせ・民話の会

- 10月 第1回 お話パレットさんによるお話会（全学年）
- 11月 2年生 お話会
先生方（本校）によるお話会（朝学習の時間を活用）



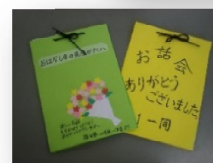
12月 1年生 お話会

中学年 民話の会 (地域素材の昔話)

2月 高学年 民話の会 (地域素材の昔話)

第2回 お話パレットさんによるお話会 (全学年)

- ・地域の読み聞かせボランティアグループの方、昔話の語り部をなさっている方、保護者の協力を得て、各学年年間4回の読み聞かせの会を行っており、児童は、毎回大変楽しみにしている。会が終わると、感謝の気持ちと聞き取った感想を言葉で表現することを目的とし、お礼の手紙を書いてお渡ししている。継続してきた成果として感情豊かな手紙を書ける児童が多い。



読書定期便

- ・平成25年度より、野田市南図書館（公共図書館）と連携し、毎月団体貸し出し（各学級に6冊ずつ）を行っている。各学級への図書の配布、PR、回収は、図書委員。図書委員の指導は校長が行い、選書は、学年、季節等に合わせた良書を南図書館の方にしていただいている。学級の本が定期的に変わるので、楽しみにしている児童が多い。



ブックトーク（校長先生のおすすめ本紹介）

- ・全校朝会の時に、季節、学校行事、社会問題などに合わせて、校長が本の紹介を行っている。話を聞いて本を読みたいとなった児童は、校長室に行き、本を借りてよいことになっている。また、紹介した本は、職員玄関奥ギャラリーに展示している。

読書推進期間（11月～3月）

- ・11月から3月に行うお話会に合わせて、読書推進期間を設定。図書委員会の活動（委員会発表・昼の放送）、週末読書の進め（図書委員会、担任）を行っている。読書の楽しさを体験させ、読書の範囲を広げられることを目的としている。

アニメーションの授業「読書活動」から「読書教育」へ

- ・今年度の新たな取り組みとして、NPO法人日本アニメーション協会理事長 黒木秀子先生をお迎えして、アニメーションの授業を行った。アニメーションとは、「読書に背をむけた子どもを読書好きにする」「子どもを正しく読めるよい読

み手にする」ことを目的として、様々な手法（作戦）を使って読解力をつける読書教育法である。あらかじめ学級の児童全員が同じ本（予読本）を読んでおくことが前提だが、授業はクイズ形式であったりグループで活動したり、楽しく力がつく展開である。

6月19日実施

5年生 予読本 「フレディー～世界でいちばんかしこいハムスター～」

作戦16 章のタイトルで遊びましょう

黒木先生が、16ある章の題名が書かれたカードを黒板にばらばらに貼り、子ども達は、本の内容・構成を考えて並び替える学習を行った。



6年生 予読本 「コロボックル物語①誰も知らない小さな国」

作戦29 誰が 誰に 何を

黒木先生から台詞が書かれたカードを一人一人に渡され、それは、誰が、どのような場面で誰に言った台詞かを話し合いながら、内容を読み取る学習を行った。



1月22日実施

3年生 予読本 「火曜日のごちそうはヒキガエル」

作戦10 つかまえるよ

音読によって内容を理解する学習を行った。友達が音読を間違えたら、次の人と交替する。子ども達は、間違えないように集中して読んでいた。導入で、黒木先生が間違いを感知するセンサーを運ぶ仕草と「ピピピ・・・」と声で知らせる方式で、子ども達は、リラックスして活動できた。



4年生 予読本 「おふろのなかからモンスター」

作戦7 どんな人

自分が新聞記者になり、記事を書くために登場人物について取材をするという想定の下に、人物の「年齢」「外見」「好きな事・物」「一番その人らしい台詞」を読み取る学習を行った。引いたカードによるグループ作りで子ども達により緊張が生まれた。



*作戦とは、M. Mサルト『読書へのアニメーション75の作戦』で紹介されている子どもが読めるようになるための「遊び」の具体的な方法で、作戦番号は、サルト氏の著書によるものです。

本の内容を正しく、深く読んでいなければ分からない学習なので、子ども達は、本の内容を一生懸命に思い出し、時には考え込みながら学習に取り組む様子が見られた。児童は、本を読むときに、より深く読み取ることの必要性や楽しさを体感できたようである。また、授業後、職員は黒木先生よりアニメーションについての講義を受け、理論について理解を深める事ができた。次年度以降も継続し、徐々に担任が実践していけるように研修を積みたい。

(3) 学習等に関する支援

① 教科等に関する支援 (国語科 並行読書)

研究主題

自ら読みを深める国語科指導のあり方 ―単元を貫く言語活動の充実をめざして―

研究仮説

教材文の特徴や身につけさせたい力に合った学習のゴールを明確にし、それに向けて取り組めば、自ら学び、読みを深められる児童を育成する事ができるであろう。

手立ての中から

○単元を貫く言語活動で培った言語活動を使って、目標とする言語能力をより確かに身につける場を子どもにとって「学習のゴール」とし、その「学習のゴール」を達成するために目的意識を持って読み、その結果として「身につけさせたい力」が付くような単元構成を考える。

○並行読書のための図書を充実させ、図書室の利用を勧めるとともに、読書指導を充実させる。そのために児童に見えるように教師自ら読書するとともに、本を持ち歩いたり、座右の書を準備したりする。

本校は、研究教科を国語として7年目となる。その中で見えてきたものは、児童に目的意識を持って読ませること、目的を達成するために必要な情報収集のための並行読書の有効性である。本校では、並行読書に必要な図書を充実させるために、公共図書館 (野田市南図書館) に協力を求めている。



並行読書のための本をのせた
移動可能なブックトラック

今年度の並行読書

学年	単元名（教材名）	並行読書
3年	お兄さん、お姉さん読んでください～ぼくがつくった「のらねこ」の続き 『のらねこ』	動物の出てくる物語
4年	もんしろちょうのヒミツをさぐろう 『花を見つける手がかり』	生き物・自然の不思議に関する図書
2年	世界に一つだけのお話～わにのおじいさんのたからものつづきをかこう 『わにのおじいさんのたからもの』	鬼の出てくるお話
5年	知ろう！語ろう！伝えよう！～宮沢賢治ワールド～ 『雪わたり』	「どんぐりと山猫」「ツェネズみ」「セロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」「オツベルと象」
1年	しろくまのおはなしをかみしばいにしよう！ 『うみへのながいたび』	動物が出てくる読み物
6年	生き方を伝えよう～伊能忠敬そしてひかれる人物を～ 『伊能忠敬』	偉人の伝記

② 特設授業に関する支援

「ようこそ先輩！『南極授業』の事前調べ学習

12月18日、第56次南極観測隊員 栗原陽子先生（現野田市立川間中学校教諭）をお迎えして、「南極授業」を行った。授業に先立ち、図書室に南極コーナーを設置し、児童が南極について調べることができるようにした。南極に関する図書については、公共図書館に依頼し、30冊の貸し出しを受けた。調べ学習後、南極について興味を持ったこと、疑問などをカードに書き、栗原先生に伝える事ができた。児童は、南極について興味・関心を持って「南極授業」に臨むことができ、活発に反応し、発言していた。



<図書室の南極コーナー>



6 成果と課題

- ・平成25年度より全校平均で貸し出し数が急激に増えている。これは、担任の児童への働きかけ（週末読書「本を借りていきましょう。」）と図書ボランティアの復活による人のぬくもりのある図書室運営による成果と言ってよいだろう。学校体制で読書活動を推進するとともに、学級ごとでの読書活動への取り組みが大切である。また、平成26年度もこの増加傾向は続いている。これは平成25年度の途中より図書がバーコード登録され、平成26年度より貸し出しはすべてPC処理で行われるようになったこと、学校図書館司書が配置されたことが大きく影響している。人的な措置、手続きの簡便化は、貸し出し数増加の大きな要因である。
- ・本校の読書推進活動に関する取り組みは、大変豊富に行われている。読み聞かせやお話会は、授業時数確保のため実施を昼休みにしたり、先生方のお話会は担外が担当したりと、時間・場所・形を工夫しながら、10年以上に渡って、継続的に行っている活動である。書く学習（お礼の手紙、感想）と関連させ、児童の表現力向上も図っている。他教科ではあるが、音楽の鑑賞の授業で、子ども達の感性豊かな鑑賞文に驚いたという講師の言葉に、児童の表現力向上の手応えを感じている。
- ・研究教科の国語の学習として並行読書を行っている。（指導案参照）児童に読ませたい、あるいは児童から要望のあった図書は、公共図書館の協力を仰ぎ、読書の幅を広げさせるとともに、学習に役立てている。
- ・「読書定期便」として毎月の団体貸し出しを推進し、今年度は、公共図書館の「本の洗濯物」という図書紹介の取り組みへの協力など、さらに連携を深める事ができた。
- ・今年度の新たな取り組みとしてNPO法人「日本アニメーション協会」理事長 黒木秀子先生に行っていたいただいたアニメーションの授業研修によって、「読書」に対する意識を児童・職員ともに高めることができた。児童に漫然と本を読ませても読解力はつかない。アニメーションの目的である「本の内容を正確に読むこと」、「本についての自分の意見や感想を表現すること」は、本校の国語科研究の目指すことと共通しており、今後も継続予定である。



アニメーション授業後の児童の感想より

- ・アニメーションの授業がとても楽しかった。本を読むときにまず目次や章を見て、どんなお話なのか考えるようになりました。
- ・読んでいる途中で、登場人物がどんな人か分からなくなったら、戻って確かめから読むようになりました。
- ・みんなで本のクイズをしたことがとても楽しかった。「誰も知らない小さな国」のシリーズを読みたくくなりました。
- ・本は、文字だけなので、文字から様子を想像しながら読むようになりました。

- 平成26年度、学校図書館司書が配置されたが、本年度は配置がなかった。図書ボランティアに関しても、平成24年度に一度不在になったが、平成25年度より再募集を行い活動再開という現状である。しかしながら、学校長を中心として、図書ボランティアの募集、図書室の環境整備（書架のペンキ塗り、紹介図書のための本立ての設置など）読書定期便、アニメシオンの授業研修等、学校全体で、読書活動・読書教育を推進できた。
- 1月19日に実施した6年生の国語授業は、図書室の「読書センター」としての魅力をさらに増すための学習であった。6年生の作成した帯紙を本に付けて残しておくことで、本を手にする児童が少しでも増えることを期待する。（指導案参照）
- 本校の図書室を「情報センター」として機能させる取り組みは、まだ不十分である。しかし、本年度特設授業「南極授業」に関して、団体貸し出しを利用してコーナーを設置し、事前学習に活用する事ができた。また、調べ学習に活用できるシリーズ物の図鑑類も例年より多く購入し充実を図った。今後、国語以外の教科でも積極的に図書室を活用できるように、実践例の記録と情報交換、調べ学習に関する図書の充実、公共図書館との一層の連携、学校図書館書司書の配置要望等の課題を、本校に合った方法で工夫しながら、改善に努め児童の学力向上を図っていきたい。

第6学年1組 国語科学習指導案

平成28年1月19日

指導者 相田 陽子

1. 単元名 (教材名) 生き方を伝えよう ～伊能忠敬そして心ひかれる人物を～
(本教科書用に書きおろし。平成23年度版より掲載。平成27年度版にて、大幅に改稿。)

2. 単元について

(1) 単元構成

本単元は、国語科学習指導要領第5学年及び第6学年「C読むこと」(1)の

ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」
エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえること。」

を受け構成されている。

単元配列は、別紙のようになっている。

(2) 身につけさせたい言語能力

- ・自分の好きな人物を紹介することに関心を持ち、意欲的に教材文を読み、自分の考えを広げたり、深めたりしようとする力。----- (国語への関心・意欲・態度)
- ・伊能忠敬の足跡をたどりながら、そこに書かれた行動や考え方を押さえ、それに対する自分の考えをはっきりさせながら読むことができる力。
----- (読む能力 C(1)ウ・エ)
- ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つことができる力。
----- (言語についての知識・理解・技能 伝国(1)イ(カ))

(3) 単元観

これまで『川とノリオ』(すぐれた表現を読む)、『きつねの窓』(構成の工夫を読む)で、文学的文章を読んできた。この『伊能忠敬』で初めて伝記を読むことになる。

本教材の特徴は、伊能忠敬の業績だけでなく、彼の行動や言葉などから人物像や生き方を読み取れることである。児童は教材文を読むことを通して、忠敬の思いや生き方を読み深めることができるであろう。今まで社会科で学んだ内容に、国語科での豊かな読みを重ねていきたい。また、教材文が長いことも特徴であるので、年表化して行動を視覚的にとらえやすくするなど、読み取りの工夫をしたい。

そして、一人の人物の生き方を読み、考えることは、自分自身のこれからの生き方や考え方を振り返る上でもよい機会である。小学校卒業という節目をもうすぐ迎える児童にとって、ふさわしい単元であると考えます。

単元を貫く言語活動は、「**生き方を伝えるために、伝記を読むこと**」である。その人物の生き方を伝えるためには、まず伝記に書かれた文を読み深め、ものの見方や考え方を読み取ることである。

学習のゴールは、「**伝記に生き方を伝える帯紙をつけて図書室に展示し、下級生に紹介する**」とする。下級生が帯紙を見てその本を読みたいと思ってくれるか、自分達が卒業した後も帯紙が残ることに、6年生もわくわくしながら意欲的に学習を継続できるか、帯紙の見栄えだけでなく、心情を込めるといった点も大切にしていきたい。

(4) 児童の実態 (男子7名 女子9名 計16名)

本学級の児童は素直で真面目で、物事に集中して取り組める児童が多い。朝の読書の時間には全員が静かに本の世界に浸っている。行動がやや控えめな傾向はあるが、学習面でも生活面でも、

着実に努力を重ねていくことができている。

どの児童も真剣に学習できる反面、自分の考えを持つことが苦手な実態がある。この学習を通して、「生き方」に対する自分の考えを持てるようになることを願っている。

本校では縦割りグループでの遊びや清掃など、異学年が交流する場面が多い。学年を超えて、全校児童の心がつながっている。自分達が卒業した後も、伝記を読もうとする下級生が増え、本を選ぶ時の道しるべになるように、帯紙作りへの児童の意欲を高めていきたい。そしてその学びを通して、自ら読みを深める力を伸ばしてほしいと願っている。

・実態調査

①今までに誰の伝記を読みましたか。(学習漫画を含む)

・坂本龍馬	10名	・エジソン	2名
・卑弥呼	9名	・ヘレンケラー	2名
・織田信長	9名	・ベートーベン	2名
・雪舟	9名	・キング牧師	2名
・豊臣秀吉	8名	・アンデルセン	2名
・空海	8名	・宮澤賢治	1名
・徳川家康	7名	・ナイチンゲール	1名
・行基	7名	・野口英世	1名
・福沢諭吉	7名	・マザーテレサ	1名
・源頼朝	6名	・キュリー夫人	1名
・源義経	6名	・西岡京治と里子	1名
・聖徳太子	6名	・モーツァルト	1名
・武田信玄	6名	・ライト兄弟	1名
・上杉謙信	6名	・リンカーン	1名
・平将門	4名	・ナポレオン	1名
・松尾芭蕉	5名	・シューベルト	1名
・徳川吉宗	4名	・夏目漱石	1名
・西郷隆盛	4名	・ウォルトディズニー	1名

②伊能忠敬について知っていたこと

・(初めて正確な) 日本地図を作った人	12名
・地図を作った人	4名
・千葉県の人	15名
・50才で天文学と測量術を学んだ人	1名

③『伊能忠敬』の一読後の感想

・作った地図がとても正確ですごい	8名
・悲しいことやつらいことを乗り越えて地図を作ったすごい	8名
・50才を過ぎてから学問に励んですごい	5名
・自分より先に信頼していた弟子や子どもが死んで、かわいそう	4名
・とても優秀な人ですごい	3名
・文章が長かった	3名
・人生の半分を地図作りに費やしてすごい	2名
・子どもが死んだことを知らなくてかわいそう	
・4万キロを歩くななんてすごい	
・星や暦が好きな人なんだとわかった	
・年下の師から学んだことがわかった	
・何度も測量してすごい	

- ・たくさん努力したことがわかった
- ・歩いて測量してすごい
- ・亡くなる直前まで日本地図を作るのを頑張っってすごい
- ・長い間伊能図が使われていたことがわかった
- ・地図を作ることを思いついてすごい
- ・小図、中図、大図の3種類あるのが不思議
- ・慎重な人だと思った
- ・年をとってから日本中を歩き回ってすごい

・考察

児童は社会科の学習の一環として、歴史に関する本の読書をしてきた。6月から毎週1冊のペースで取り組んできたので、その冊数は各自20冊を超えている。歴史上の魅力ある人物にひかれて、伝記を選んだ児童も多い。また、学級文庫に外国人を含む現代の偉人の伝記が多く備えられていることから、毎週月曜日の朝読書の時間を活用して読んでいる児童も多い。国語科の学習で伝記が出てくるのは初めてだが、児童は抵抗なく取り組めると考える。

伊能忠敬の業績については社会科で学んだので、何をした人か児童は知っている。しかし、教材文の『伊能忠敬』の一読後の感想を見ると、性格や考え方が描かれていることに気づいたことがわかる。人の生き方が読み取れる伝記への、興味・関心を更に高めていきたい。

また、文章が長いと感じた児童もいることから、年表化などの工夫をして、読み取りをしやすくしたいと思う。

そして、一読後の感想が「～がすごい」「～してすごい」のように「すごい」という言葉でひとまとめにしている傾向があるので、帯紙を作る際は、言葉を吟味して自分の言葉で表現できるようにさせたい。

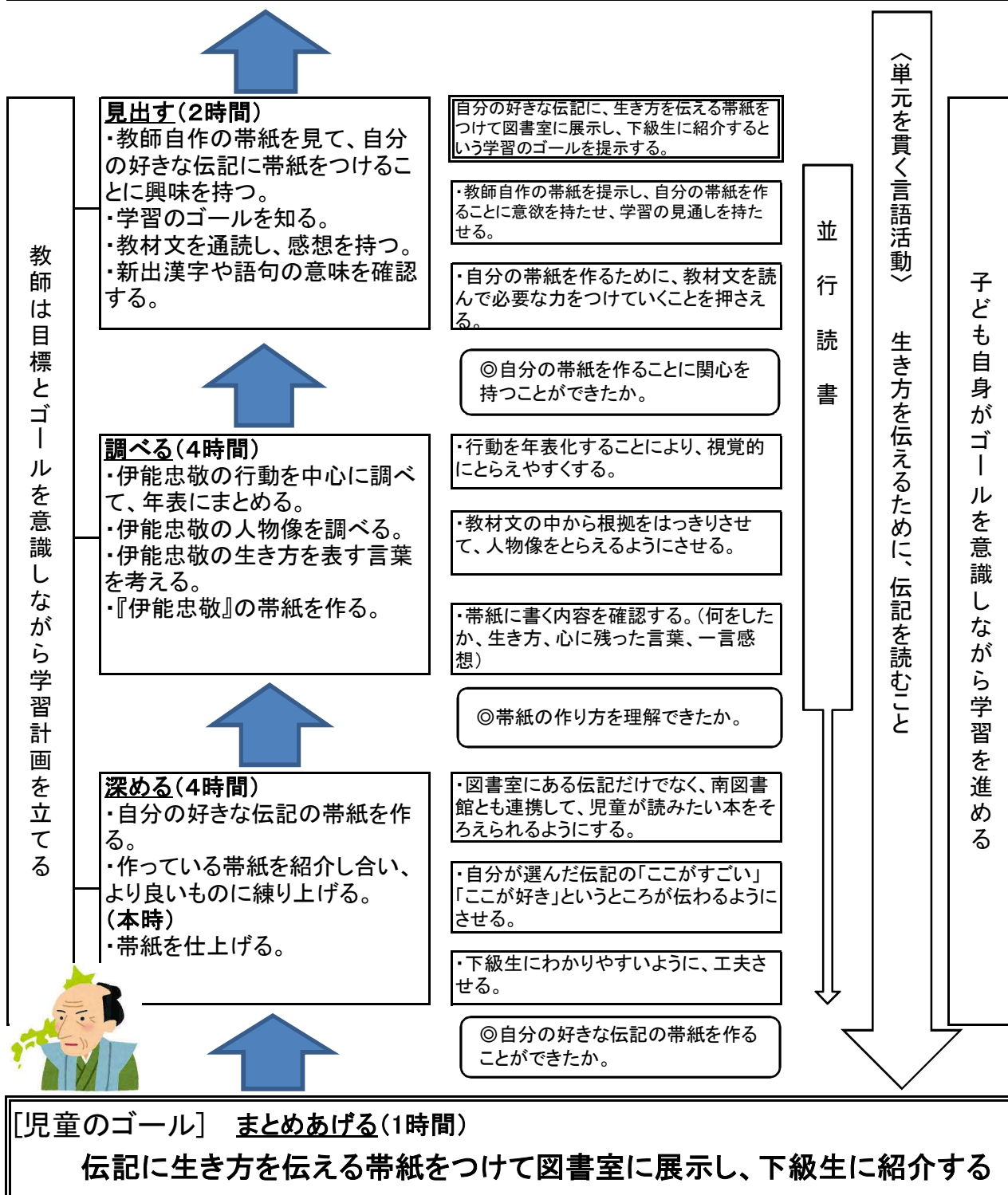
3. 単元全体構想図

6年1組 生き方を伝えよう ～伊能忠敬そして心ひかれる人物を～ (11時間)



[単元の目標(身につけさせたい言語能力)]

- 自分の好きな人物を紹介することに関心を持ち、意欲的に教材文を読み、自分の考えを広げたり、深めたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- 伊能忠敬の足跡をたどりながら、そこに書かれた行動や考え方を押さえ、それに対する自分の考えをはっきりさせながら読むことができる。 (読むこと)
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つことができる。 (言語(伝国))



↑ は、教師が単元を構想する際の思考の流れを表す。

4. 本時の指導 (9 / 11)

(1) 本時の目標

- ・自分の好きな人物を紹介するために、意欲的に伝記を読もうとする。
(関心・意欲・態度)
- ・自分の作っている帯紙を見直すことで、深めた読みを確かなものにすることができる。
(読むこと)

(2) 展開

過程	時配	学習活動と内容	教師の支援・指導・評価 (◎) ◇研究主題に迫るための具体的手だて 主発問
見出す	5	1. 前時の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールの確認 ・帯紙に書く内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> ①何をした人か ②どんな生き方をした人か ③心に残った言葉 ④一言感想 2. 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れがわかるように、学習計画を図書室内に掲示しておく。 ・前時の掲示物を活用する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 作っている帯紙を紹介し合い、より良いものに工夫しよう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・作っている帯紙を紹介し合い、より良いものに練り上げていくことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩達が残してくれた本の紹介のポップに目を向けさせ、自分達が卒業した後も下級生に見てもらえる帯紙作りに、意欲を持たせる。
調べる	16	3. 帯紙の見方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・その本が読みたくなるか。 ・「ここがすごい!」「ここが好き!」というところが伝わってくるか。 4. グループ内で帯紙を見合い、気がついたことを付箋に書いて貼る。 (良い所はピンク色の付箋に、直すともっと良くなる所は、黄緑色の付箋に書く。) <ul style="list-style-type: none"> ・「つらくても負けない人」という言葉から、その人の強い生き方が伝わってくる。 ・どこがすごいと思ったのか、一言感想にもう少し書いた方がよい。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> その本が読みたくなる帯紙にするには、どのように工夫したらよいでしょうか。 </div> ◇自分が選んだ伝記の「ここがすごい!」「ここが好き!」というところが下級生に伝わるように、一言感想を工夫させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・8人グループで行う。前半は自分のグループの帯紙を見て付箋をつけ、後半は違うグループのものを見るようにする。 ・図書室の机の広さを利用して帯紙を並べ、児童が動き回って見やすいようにする。 ・帯紙はコピーした物も置いておき、コピーの余白部分に付箋を貼らせるようにする。 ・帯紙のコピーは何枚か重ねておき、同時に複数の児童が手に取れるようにする。 ・良い点と改善点の付箋の色を変えることで、見やすくさせる。 ◎友達の帯紙を見て、気づいたことを付箋に書くことができたか。

<p>深める</p>	<p>14</p>	<p>5. より良いものにするために、意見交換しながら帯紙を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貼ってある付箋に書かれていることを読み、見直す。 ・付箋の内容について、書いた人の所へ行き、さらに意見を求めるなどして練り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれた付箋をもとに、自分の帯紙について振り返らせる。 ・付箋を書いた人の所へ移動して、直接意見交換ができるようにする。 <p>◇どんな所からその人物像がわかったのか、本に貼った付箋部分を紹介しながら、練り合いを深めさせる。</p> <p>◎帯紙をお互いに紹介し合い、より良いものにしようと意見交換できたか。</p>
<p>まとめあげる</p>	<p>10</p>	<p>6. より良い帯紙にするための工夫をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を短くすると良い。 ・言葉を強調する。 ・絵を入れる。 <p>7. 本時の学習を振り返り、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんが作った帯紙を見て、自分もその本を読んでみたくなった。 ・良いところをほめられて、うれしかった。 ・下級生が帯紙を見て、読みたくなってほしい。 <p>8. 次時の学習を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日学んだことをもとにして、帯紙を仕上げることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書にもまとめる。 ・友達の考えを、よく聞くようにさせる。 ・学習の流れがわかるように、学習計画を図書室内に掲示しておく。

(3) 板書計画

生き方を伝えよう

↳伊能忠敬そして心ひかれる人物を

伝記に生き方を伝える帯紙をつけて図書室に展示し、
下級生に紹介しよう。

今日は・・・

作っている帯紙を紹介し合い、
より良いものに工夫しよう。

より良い帯紙にするポイント

・その本が読みたくなるか

・「ここがすごい!」「ここが好き!」が
伝わってくるか

良い所

直すともっと良くなる所

言葉を短く・言葉を強調する・絵を入れるなどを
工夫するとよい。

〈帯紙に書く内容〉

- ①何をした人か
- ②どんな生き方をした人か
- ③心に残った言葉
- ④一言感想

過程	時	学 習 活 動	指導上の留意点・評価(◎) ◇研究主題に迫るための具体的手だて
見出す	1 2	<p>○教師の好きな伝記について、自作の帯紙を使った紹介を聞き、伝記を読むことに興味を持つ。</p> <p>○学習のゴールが「伝記に生き方を伝える帯紙をつけて図書室に展示し、下級生に紹介する」ことを知り、そのために教材文を読んで必要な力をつけていくという見通しを持つ。</p> <p>○教材文の題名にある「伊能忠敬」について、知っていることを想起する。</p> <p>○教材文を読み、感想を書く。</p> <p>○感想を発表する。</p> <p>○新出漢字や語句の意味を確認する。</p> <p>○図書室に行き、伝記を探す。</p>	<p>◇伝記を読んで帯紙を作ることへの関心・意欲を高めたり、学習の見通しを持たせたりするために、教師が自作の帯紙を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生がその伝記を読みたくなるような帯紙にするにはどうしたらよいか、課題を投げかける。 <p>◎自分の好きな伝記に帯紙をつけることに、関心を持つことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の歴史学習や4年生での郷土学習で学んだことを思い出させる。 ・面白い、不思議、わからない、もっと知りたいなど、初めの感想を大切にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・語句の詳しい意味は、教材文の読み取りの中で扱っていく。 ・並行読書のための本に興味を持たせる。 <p>◇自分の好きな人物の伝記を探すという目的を明確にして、並行読書を始めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行読書では、主体的な多読ができるように個別に支援していく。
調べる	3 4 5 6	<p>○時を表す言葉に気をつけて、伊能忠敬の行動を中心に、年表にまとめる。</p> <p>○伊能忠敬がどのような人物だったのかがわかる文を探し、人物像を考える。</p> <p>○伊能忠敬の生き方を表す言葉を考える。</p> <p>○『伊能忠敬』の帯紙を作る。</p> <p>○教科書を本に見立てて帯紙をつけ、お互いに紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年表化することにより、忠敬の行動を視覚的にとらえやすくする。 <p>◇性格、ものの見方、考え方がわかる文に線を引き、わかったことを付箋に書いて貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文の中から根拠をはっきりさせて、人物像をとらえるようにさせる。 ・付箋に書いた言葉をもとに、生き方を最も表している言葉を考える。 ・「困難に負けない人」「夢をあきらめない人」などのようにまとめさせ、帯紙作りに生かす。 ・帯紙に書く内容を確認する。(何をした人か、どんな生き方をした人か、心に残った言葉、一言感想を必ず入れる。) <p>◎帯紙の作り方を理解できたか。</p>

深める	7 8 9 10	<p>○自分の好きな人物の伝記について、その人物像や生き方をまとめ、帯紙を作る。</p> <p>○作っている帯紙を紹介し合い、より良いものに練り上げる。</p> <p>○帯紙を仕上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室にある伝記を活用する。 ・南図書館とも連携して、児童が読みたい伝記をそろえられるようにする。 ・本には書き込めないで、付箋を活用する。 <p>◇自分が選んだ伝記の「ここがすごい!」「ここが好き!」というところが下級生に伝わるように、一言感想を工夫させる。</p> <p>◎帯紙をお互いに紹介し合い、より良いものになろうと意見交換できたか。</p>
まとめあげる	11	<p>○自分が作った帯紙を紹介する。</p> <p>○自作の帯紙をつけた伝記を、図書室に展示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室に展示した伝記の帯紙をお互いに見合い、帯紙の魅力を再確認する。

第3学年1組 国語科学習指導案

平成27年7月8日

指導者 加藤 聡

1. 単元名（教材名） お兄さん、お姉さん読んでください～ぼくが作った「のらねこ」の続き～
「のらねこ」 『ぼたぼた』筑摩書房 1983年 1996年度版より掲載

2. 単元について

(1) 単元構成

本単元は、国語科学習指導要領第3学年及び4学年「C読むこと」(1)の

ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」

カ「目的に応じて複数の本や文章などを選んで、比べて読むこと。」

を受け構成されている。

単元配列は、別紙の系統表のようになっている。

(2) 身につけさせたい言語能力

- ・動物が登場する物語に興味を持ち、意欲的に教材や選んだ本を読む力。

(国語への関心・意欲・態度)

- ・場面の移り変わりに注意しながら、ぼくと「のらねこ」の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む力。

(読むこと C(1)ウ)

- ・目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読む力。

(読むこと C(1)カ)

- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く力。

(言語についての知識、理解、技能 伝国(1)イ(カ))

(3) 単元観

本教材では、『のらねこ』を読み、物語の続きを想像して書かせる活動を行う。しかもここでは、教材を読み取らせた後に『のらねこ』の基本的な場面設定や、登場人物（エピソードⅠ）を踏襲させ、単なる続きを想像するのではなく、のらねことリョウの飼い猫の出会いをきっかけとした新たな物語の「創作」（エピソードⅡ）に取り組ませる。さらに、物語をどのように終わらせるか（エピソードⅢ）についても取り組ませ、読むことを主として、書くことに発展させていきたい。そのためには、教材をいかに読むかが重要であり、この教材の大きな特徴である、会話を中心に物語が展開され、行動や様子を説明することなく、会話がそれらを補っている点をとらえなければならない。会話を丁寧に読んでいくことで、人物の気持ちの動きが分かり、特に、のらねこの気持ちはリョウを通して書かれているという点は、とても重要な要素である。会話を中心に展開する方法は、エピソードⅠ、エピソードⅡを創作する際にも取り入れていきたい方法である。さらに、軽快な文体、現在進行形を多用した歯切れのよい文、そして、リョウの内心語なども取り入れていきたい。そして、ほんのりと温かいユーモアやどこことない物悲しさ、それでいて笑えるような物語を創作し、読んだことを活用して創る喜びを味わって欲しいと思う。

本学級の児童は、『白い花びら』の単元で、物語の続きを自分で想像し、読んだことを生かして書く楽しさを体験した。児童の中には、優れた情景描写を使って書いた児童もいた。登場人物の性格を基に物語を書くという活動は、読みを深めるとともに想像力を伸ばし、語彙を増やすことにもつながると思う。

単元を貫く言語活動は「登場人物の性格を想像して物語を読もう」である。

また、学習のゴールは、「『のらねこ』の続きを創って4年生に読んでもらおう」とする。昨年度『のらねこ』を学習した4年生は、この物語をととても気に入っていたらしい。創った物語を読んでもらうというゴールを設定することで、学習する意欲を高め、継続できると考える。4年生に読んでもらうことに向けて、3年生と4年生が触れ合う機会を設けてきた。5月の運動会を皮切りに、6月の筑波山登山クイズ大会、お楽しみ会、筑波山登山などは2学年合同の班を組んで取り組んだ。様々な場面で触れ合った4年生に読んでもらうことは、とてもやりがいのあることである。

(4) 児童の実態 (男子9名 女子6名 計15名)

本学級の児童は、普段の学習では、とても賑やかで活発である。しかし、自分の思いや考えを積極的に述べようとしつつも、語彙が少なく、思っていることを表現することが難しいという課題がある。また、表現の仕方も幼いことが目立つ。そのため、語彙を増やす活動として、5月から国語辞典をそばに置き、教科を問わず活用させてきた。さらに、自分の気持ちや考えをまとめて話すことや、人前で発表することが苦手であるという児童も多い。たとえできたとしても自信が持てず、控えめな態度に出る傾向が強い。この学習を通して、自分の意見や考えを持ち、それをもとに話し合い、創作することを通して、自信が持てる児童にしていきたいと思う。その際、自分と他人の意見が食い違っても構わないし、お互いの意見に対して考えを述べ合うことは必要なことだと考えられるようになって欲しい。

・実態調査 (実施15名)

① 物語文と説明文では、どちらが好きですか。

物語文 6名 説明文 9名

② ①を選んだ理由

物語文が好きな理由

- ・いろいろな話があって面白いから。
- ・読んでいると、その物語に入ってみたいと思うときもあるから。
- ・不思議なものが出てくるから。
- ・2年生の時に読んだ物語が面白かったから。
- ・本や小説が好きで、物語が好きだから。
- ・いろいろな話を知りたいから。

説明文が好きな理由

- ・生き物の説明が書いてあるから。
- ・なぜそういうのかが簡単にわかるから。
- ・科学的で勉強に役立つから。
- ・いろいろなことが書いてあるから。(2)
- ・いろいろなことがわかるから。(2)
- ・自分が知らないことがいっぱいあるから。

・勉強になるし、そのもののことがわかるから。

③ 『白い花びら』の続きを書いた感想

楽しかった 12名 難しかった 3名

④ ③の理由

楽しかった理由

- ・どんどん言葉が浮かんできて面白い物語が完成したから。
- ・考えて書くことが楽しかったから。
- ・話の続きがどこまで続くのかを思うところが楽しかったから。
- ・以前物語を作ったことはあるが、学校で作ったほうが楽しかったから。
- ・自分の思った内容が書けたから。
- ・続きが書けたから（2）
- ・この世で一つの文を作って読めるから。
- ・頭で考え、手で書いて、それを読むことができたから。
- ・どんどん場面が変わってくるから。
- ・考えて書くのが楽しかったから。
- ・続きをどうするかというアイデアがいっぱい浮かんできたから。

難しかった理由

- ・物語の続きを作ったことがないから。
- ・自分で話を作ったことがないから。
- ・自分で物語の続きを書いて、どうなるかを考えるから。

⑤ 『白い花びら』の続きを書くときに気にしたこと、工夫したこと、考えたこと

- ・女の子を最初に出すか、最後に出すかを気にした。
- ・女の子と会うタイミングを工夫した。
- ・次をどんどん考え、どんな文を作るか考えた。
- ・かずき君にも女の子が見えるようになって、最後は3人で遊べるように考えた。
- ・文末表現に気をつけた。
- ・最後に女の子がどう言えばよいか考えた。
- ・女の子の声を聞いて、ゆうた君が女の子を思い出すように工夫した。
- ・女の子と出会う場面を考えた。
- ・かずき君が女の子と会えるように工夫した。
- ・桜の木と女の子のことを気にして、ゆうた君がどのように動くかについて考えた。
- ・女の子がかずき君には見えないのに、なぜゆうた君には見えたのかを気にした。
- ・特になし。（4）

⑥ 「のらねこ」の初発の感想

- ・のらねこの恐怖心と油断できない怖さがわかった。リョウの猫が来て、逃げたことに驚いた。
- ・のらねこの少しこわいところが面白い。ずうずうしい。リョウとのらねこの気が合わない。
- ・のらねこは、かんづめ一口でよく我慢できたな。
- ・のらねこはわがまま。今後、リョウの前に現れるか現れないか楽しみ。
- ・のらねこは初めはリョウを怖がっていた。
- ・のらねこは、かわいがられることを知らなかった。

- ・のらねこはリョウのことを疑っていた。
- ・ねこが話すところが面白い。のらねこは厳しい言葉づかいをしている。
- ・のらねこは、どうして最後に屋根の上にしたのだろうか。
- ・初めに怖がっていたのに、だんだん仲良くなったところがよかった。のらねこは警戒心が強い。のらねことリョウが前足を伸ばしあったところがとてもいい。
- ・ねこがしゃべるところが不思議。リョウのおかげでのらねこはかわいがられることを知った。最後にのらねこが消えるところが不思議だった。
- ・リョウのねこものらねこも話をするとところが面白い。のらねこは最後の場面で何を見ていたんだろう。

・考察

物語文よりも説明文を好む傾向は意外だった。3年生になって、新しく理科や社会科が加わったことで、科学雑誌の紹介などを行ってきた。また、アゲハチョウの飼育やヒマワリの栽培、観察などで驚くことが多かったことも影響しているかもしれない。物語文を好む理由の中に、「物語の中に入ってみたい」「不思議なものが出てくる」という内容があった。「のらねこ」は、猫と人間が会話しながら物語が展開され、児童にとって親しみやすい物語となっているので、この学習を通して、物語の楽しさを味わって欲しいと思う。

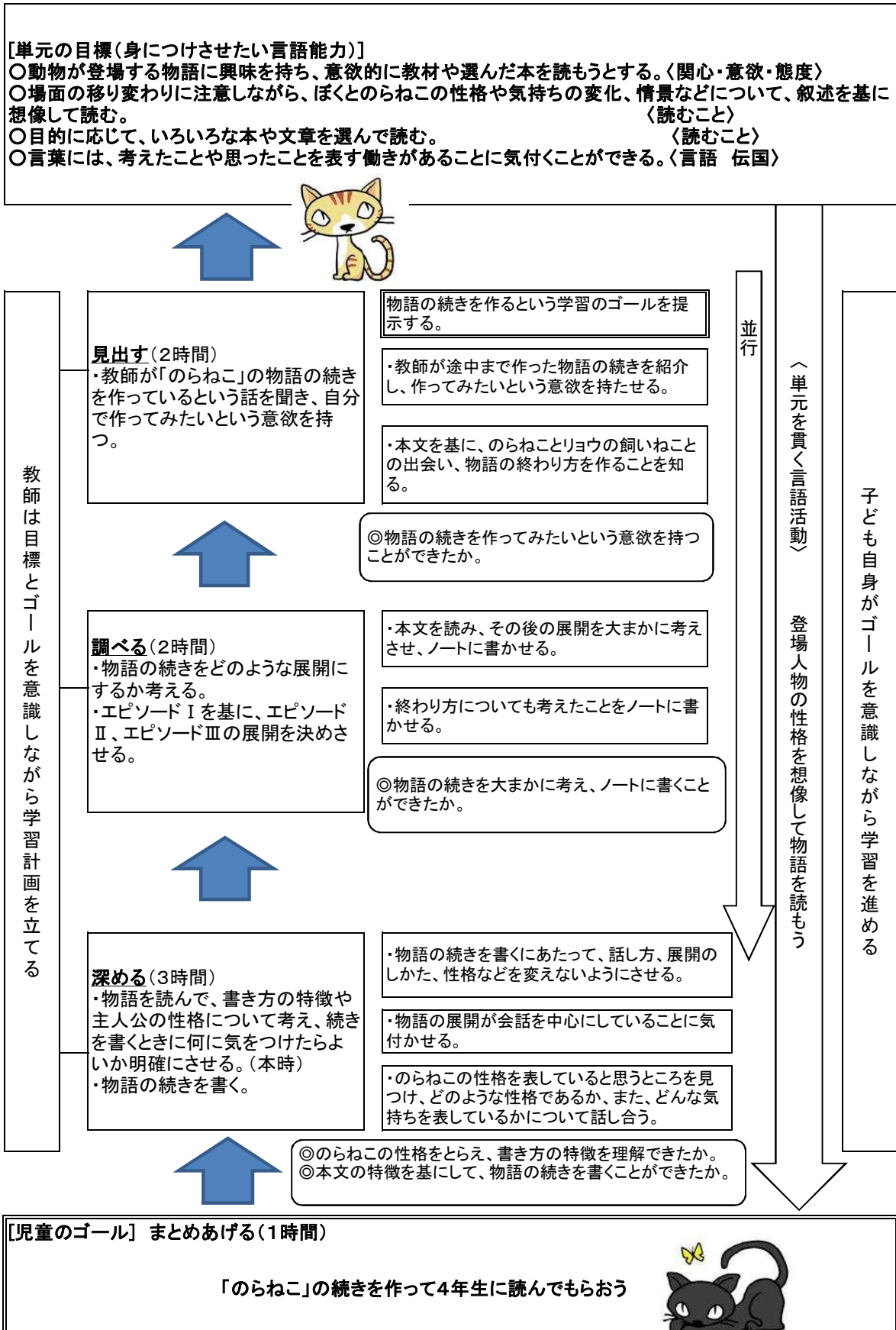
また、『白い花びら』の続きを作ったことについて、好意的にとらえている児童が多かった。本教材で続きを作る活動は3年生になってから2回目の活動となるので、主人公の性格分析や表現の仕方などに考えを広げさせたいと思う。さらに、物語を作る際に気にしたこと、工夫したこと、考えたことに関しては、今回も役立つことが予想される。例えば、出会う場面が最初か最後か、出会うタイミング、発する言葉、思い出す場面、登場人物の性格の変化などは、『のらねこ』の続きを作る際に活用できるものである。

初発の感想から、警戒心の強いのらねこの性格についてとらえている児童も多かった。また、リョウとリョウの家の猫と一緒に帰る場面について気にしている児童がいたことは、その後の展開を作るうえで取り組みやすい。

完成した物語が、読む側の4年生の感動や驚きをさそうものであるならば、作る側としても醍醐味を味わうことができるだろう。

3. 単元全体構想図

3年1組 お兄さん、お姉さん読んでください～ぼくが作った「のらねこ」の続き～「のらねこ」(8時間)



↑ は、教師が単元を構想する際の思考の流れを表す。

4. 本時の指導（5／8）

（1）本時の目標

- ・物語を読んで、のらねこの性格について考えることができる。（読むこと）
- ・物語の展開が会話を中心に行っていることに気付くことができる。（読むこと）

（2）展開

過程	時	学習活動	指導上の留意点・評価（◎） ◇研究主題に迫るための具体的な手立て 主発問
見出す	5	1. 前時の復習をする。 ・学習のゴールの確認 2. 本時の学習課題をつかむ。	・エピソードⅠを基に、エピソードⅡ、エピソードⅢを書くことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 物語の続きを書くときに、何に気をつけたらよいだろうか。 </div>
調べる	15	3. 物語を書くときに気をつけることについて考えさせる。 ・会話を多く取り入れる。 ・文末表現を同じにする。 ・表現の仕方に気をつける。（警戒、許し、甘え、厳しさなど） ・性格を変えない。 ・「性格」の意味についてはP. 95を引用する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> まるで三木卓さんが書いたお話のようにするのはどうしたらよいでしょう。 </div> ○以下のことを本文から読み取らせる。 ・会話の役割について。 ・文章の最後はどのような書き方をしているか。 ・のらねこの性格を表していると思うところを見つけ、線を引く、どのような性格であるか、また、どんな気持ちを表しているか。 ・体言止めや途中で言葉が途切れている文章に込められた気持ち。 ◇自分の考えをノートに書かせる。 ◎物語を書くときに気をつけることについてノートに書くことができたか。
深める	15	4. 性格や表現の仕方について調べたことを発表する。 ・性格に関しては一つにしぼらず、出	・意見の相違に注目させ、様々なとらえ方があることに気付かせる。

深める		<p>されたものを尊重する。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用心ぶかいせいかく ・けいかい心が強いせいかく ・えらそうなせいかく ・人間にきびしいせいかく 	<ul style="list-style-type: none"> ・のらねこの独特な言い方に注目させ、どのような性格、感情が込められているか話し合わせる。 ・文末表現は敬体であるが、会話の部分は命令調であったり、体言止めであったりと様々であることに気づかせる。 ・性格や感情にかかわる発言には特に注目し、できるだけ詳しい発言を促す。
まとめあげる	10	<p>5. 本時の学習をまとめる。</p> <p>のらねこのせいかくや言い方を変えないで物語を書くようにすればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を書く。 <p>6. 次時の学習を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が、物語を書く際に役立つように書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた内容を、数人に発表させる。

(3) 板書計画

<p>㊦</p> <p>のらねこのせいかくや言い方を変えないで物語を書くようにすればよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・せいかくを変えない 用心ぶかい けいかい心が強い きげんがわるい びくびくしている めいれい ぶつきらぼう 	<ul style="list-style-type: none"> ・言い方 ぶつきらぼう めいれい びくびくしている きげんがわるい せいかくを変えない 用心ぶかい けいかい心が強い 	<p>㊧</p> <p>物語の続きを書くときに、何に気をつけたらよいだろうか。</p>	<p>「のらねこ」の続きを作って四年生に読んでもらおう。</p>	<p>のらねこ</p> <p>三木卓</p>
---	--	---	---	----------------------------------	------------------------

深 め る	5 本 時	○物語を読んで、書き方の特徴や主人公の性格について考え、物語の続きを書くときに、何に気がつけたらよいかを明確にする。	◇物語の続きを書くときに、何に気がつけたらよいか考えさせる。 ・物語の続きを書くにあたって、話し方、展開のしかた、性格などを変えないようにさせる。 ・物語の展開が会話を中心に行っていることに気付かせる。 ・のらねこの性格を表しているところを見つけ、どのような性格であるか、また、どんな気持ちを表しているかについて話し合う。 ・のらねこの話し方の特徴をつかませる。 ・性格については、厳密な制限をしないことで独創性を引き出すようにさせる。 ・リョウの飼いねこの性格は、各自に決めさせる。 ◎のらねこの性格をとらえ、書き方の特徴を理解できたか。
	6 7	○物語の続きを書く。	◇本文を基に、自分で考えた物語を書かせる。 ・会話を中心にした書き方で書かせる。 ・のらねことリョウの飼いねこが出会った場面と終わりの場面を書かせる。 ・書いている途中で読み返し、誤字脱字を修正させる。 ◎本文の特徴を基にして、物語の続きを書くことができたか。
ま と め あ げ る	8	○完成した作品を4年生に読んでもらう。	◇完成した作品を4年生に読んでもらう。 ・校外学習でお世話になった4年生に読んでもらい、感想を書いてもらうようにさせる。 ◎自分が作った作品を読んでもらうことで、創作の喜びを実感できたか。